

■特別講演

講師 埼玉医科大学 教授 鈴木洋通先生

演題「透析療法のうそ・まこと」

埼玉医科大学教授 鈴木先生より「透析療法のうそ・まこと」という演題で、ご講演を頂きました。

昨年につき、先生のお話はウィットに富んだ、またユーモア溢れる表現で聞く者の心を捉えて離さない1時間でありました。

さて、ご講演は、「今までの人生で全く嘘をついたことがない。という方はいらっしゃいますか？」という会場への質問で、のっけから笑いに包まれ、和やかな雰囲気が始まりました。

それから徐々に、透析患者さんにとっての「うそ・まこと」の本題に入り、一般的な通説としては正しい（まこと）ことでも透析患者さんにとっては逆に間違い（うそ）となることもあるので気を付けましょうというということを噛み砕いてお話下さいました。

例えば、「真夏に汗をかきます。汗には塩分も含まれるので塩分補給が必要と言われるが、果たしてうそかまことか？」会場へのこの問いには透析室スタッフも内心悩んだ人も居たという裏話がありますが、「透析を受けている患者さんにとってはうそとなります。日常生活では、特段の塩分補給は必要ありません。塩分を補給すると、同時に水分も補給してしまうため、実際の汗よりも多くの水分を摂取することとなってしまいます。」これが先生から示された答えでした。

会場からは、「うーん」という納得の声も漏れ、ひざを打つ思いで聴いておられた方も多かったと思います。

また、「身体のむくみには、カリウム（すいかや柿など）の摂取が良いと言われていたり、カリウムの高いものは透析中に食べると良い。という事が言われたりするが、うそかまことか？」という質問。答えは、「まず透析に入る前の状態、入って間もない頃、透析の安定期にある人、それぞれ条件に違いがあり、答えも一様ではないが、」という前提のもと、「透析を受けている患者さんにとってはうそとなります。」というものでした。前者については、「体内のカリウムは抜けにくいいため、カリウムを摂取すると過剰気味となってしまいます。ただし、カリウムを摂取した場合の体内への吸収率は、患者さんによって個人差があり、同じ量を接種しても体内への吸収率が高い人もいれば低い人もいます。それぞれデータを見ながら見極めて行く必要がある。」というもので、後者については、「カリウムは、もともと透析中に吸収されて簡単に体外に出て行く物質ではないので、もし透析中であればカリウムの高いものを食べても良いと考えている方は誤り、「うそ」です。」というものでした。

ともすれば、透析という治療を行っている最中であり、抜けていっているの

だから、安心して食べて良いという錯覚に陥り易く、そのように患者さんにお話している施設もあるということですが、それは「うそ」である。これも間違い易い設問であり、先生の解説はカリウムの腸管吸収におよび一つ一つが奥深いお話でした。この後、カルシウム・リン、心胸比・ドライウェイトと心臓の弁の異常や心筋の厚さなどの「心臓の状態」との関係、透析患者さんと心臓の手術について、透析の治療方針の決定についてなどなど、興味が尽きないお話ばかりで、あっという間の1時間でした。

鈴木先生、この場をお借りして深く御礼を申し上げます。